

令和7年度 第2回糸島市観光審議会 議事録

開催日時：令和7年7月30日（水） 10時00分～11時45分

開催場所：糸島市役所 11・12号会議室

出席者：12名

出席委員：浅岡会長、岡部副会長、荒川委員、鹿島委員、サーズ委員、白津委員、田中委員、谷口委員、徳安委員、豊福委員、山本委員、若松委員

（3名欠席）桑田委員、小金丸委員、チャン委員

事務局：経済振興部 ブランド政策課（市丸部長、下尾課長、田中課長補佐、岡本係長、竹内主任、中島主事）

支援業者：九州経済調査協会 松嶋次長、白石研究員

1. 開会

過半数を超える委員が出席し、糸島市観光審議会規則第6条に定める審議会の開会要件を満たすことが確認された。

第1回観光審議会に出席出来なかった委員（荒川委員、鹿島委員、サーズ委員、若松委員）の紹介の後、市丸経済振興部長から以下のとおり挨拶があった。

発言者	内容
市丸部長	<ul style="list-style-type: none">・本市の観光入込客は、合併以降右肩上がり推移しており、現在では750万人を超える。観光産業は裾野が広い産業であり、これだけ観光客が増加すれば、本市の基幹産業とも言えるのではないかと感じている。・一方、一部のエリアでは交通渋滞などのオーバーツーリズムの懸念も生じており、本市の観光は新たなフェーズに入っていると感じている。・第3次糸島市観光振興基本計画（以下、第3次計画という。）は今後の観光をどう進めていくのかといった重要な計画となる。本審議会においては、忌憚のない意見をお聞かせ願いたい。

2. 会長挨拶

浅岡会長から以下のとおり挨拶があった。

浅岡会長	<ul style="list-style-type: none">・本日は第3次計画の素案や策定方針に関する審議を重ねたい。・本日も活発な意見交換をお願いしたい。
------	---

3. 経過報告

田中課長補佐から以下の通り報告があった。

田中課長補佐	<ul style="list-style-type: none">・前回の審議会で皆様より頂戴したご意見を浅岡会長に取りまとめたいただき、「答申書」として市へ提出いただいている。・その後、市職員で構成する連絡調整会議を開催し、答申内容を共有するとともに、第3次計画に掲載する主な取組の検討に着手している。・検討内容については、10月上旬に開催する第3回の審議会において、皆様へお示しする予定である。
--------	--

4. 議事（浅岡会長による進行）

(1) 第3次糸島市観光振興基本計画（素案）第1章から第4章について

- ① 中島主事より資料1に基づき、第3次糸島市観光振興基本計画素案の第1章～第3章までの説明が行われた。

<補足>

- ・第1章 計画策定の趣旨
- ・第2章 糸島市を取り巻く国内外の観光の動向
- ・第3章 糸島市の観光の現状と課題

<第3章 糸島への交通手段について>

浅岡会長	・第1章から第3章について、質問や意見等あればお願いしたい。
鹿島委員	・P29の糸島市への交通手段における「自転車」は、レンタサイクルも含まれているのか。もしくは「レンタカー」にレンタサイクルは含むのか。
岡本係長	・本アンケート調査の選択肢では、特に自前の自転車とレンタサイクルを区別しておらず、「自転車」と回答してもらった人を集計した数字である。
鹿島委員	・糸島市観光協会の理事も務めており、観光協会のレンタサイクル利用が増えていると聞いたため、全体に対してどれくらいの割合なのか気になっていた。 ・次回の審議会の時などに把握できるのであれば教えてほしい。
浅岡会長	・たしかにこちらの設問は糸島市内への交通手段なので、市内での観光における交通手段についてはわからない形になっている。

<第3章 宿泊動向に関する調査（対象・手法）について>

荒川委員	・糸島訪問時の宿泊地について、日帰りがほとんどという結果であったが、こちらは調査対象を福岡県内の人に絞っており、聞く対象が間違っているのではないか。 ・宿泊を増やすには遠くから来てもらう施策が必要であり、遠くに住んで
------	---

	<p>いる人に対して調査する必要があると思うが、なぜ福岡県内を対象に聞いているのか。糸島まで車で来ることができない人に聞かないと意味がない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、韓国からの旅行者も多いと聞いたので、外国人に聞くことも必要なのではないか。
岡本係長	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27, 28年の調査の際、対象を糸島市と福岡県内の居住者としていたため、その継続性の観点で同じ対象にしている。
松嶋次長	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊や外国人に対する調査に関しては、荒川委員のご指摘のとおりであり、宿泊者の意向を確かめるにはサンプルを検討する必要があると思う。 ・P26に日帰りと宿泊のデータがあるが、当会で計測している人流ビッグデータでも、糸島市は日帰りが多いという同じ傾向にあることを確認している。
白石研究員	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の基礎調査の補足になるが、P24の調査概要にあるとおり、今回はインターネット調査と聞き取り調査の2つの調査を行っており、インターネット調査についてはご指摘のとおり福岡県内居住者に限定されている。 ・聞き取り調査の方は、市内3カ所で居住地を問わずヒアリングした結果である。聞き取り調査の対象である400人の中には福岡県外の居住者も含まれている。 ・具体的には、佐賀県唐津市29名、その他の九州79名、関東35名、中部・関西22名、中国・四国22名、北海道・東北4名となっている。
荒川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば熊本県から来ている人と東京から来ている人では傾向が違うと考えられる。どこに向けて観光施策を打つのかを意識する必要がある。 ・泊まる必要がないエリアから来た人に「泊まりますか？」と聞いても仕方がないので、調査の手法は検討すべきと考える。
山本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・本調査の実施期間はいつだったのか。時期によって回答の傾向は大きく変わってくると思う。
岡本係長	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年10月12日～13日に実施した調査となる。

② 岡本係長より資料1に基づき、第3次糸島市観光振興基本計画素案の第4章の説明が行われた。

<関連計画との整合について>

白津委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P5の計画の位置づけについて、糸島市の観光以外の分野別計画とのマッチングやどのように連携するかが不明確と感じた。 ・例えば、地域公共交通網形成計画では、昨年にマスタープランの公共交通計画がリニューアルした。今まで観光とバスはマッチングしていなかったかと思うが、最近ではマッチングしてきた。
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスになると思うが、このように糸島市の様々な分野別計画の中で観光計画はどのように連携、マッチングしていくかを具体的に示せばより分かりやすい計画になる。
下尾課長	<ul style="list-style-type: none"> ・交通に限らず色々な連携があると思う。主な施策や取組など、今後検討していく部分の中で連携を具体的に考えていきたい。

<「住んでよし、訪れてよし、働いてよし」の考え方について>

白津委員	<ul style="list-style-type: none"> ・糸島でも外部から来た方を受け入れやすい環境づくりが必要だと思う。自治体の中には、外部の方を受け入れないという方向に進んでいるところもあると聞いているが、これは良くない。 ・一方で、糸島でも二見ヶ浦が混雑・渋滞しすぎて外出したくないという声も聞いたことがある。
下尾課長	<ul style="list-style-type: none"> ・まさに計画の素案に掲げる「住んでよし、訪れてよし、働いてよし」の「三方よし」の概念に当てはまることかと思う。「市民、観光客、観光事業者」が「三方よし」になるイメージを持ちながら、本計画を推進し、将来像の実現を目指していきたい。
豊福委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「三方よし」というがこれは実現できるのか。ヒト・モノ・カネがかかるものであるため難しいと思う。素案に書かれていることは正論だが、具体的に観光に関して困っている現状を改善するようなことが本当に実現できるのか不安に思う。
下尾課長	<ul style="list-style-type: none"> ・この計画で目指すところである「未来につなぐ持続可能な観光都市“糸島”」を実現するために、様々な方の声を聴き、ヒト・モノ・カネを考慮しながら、優先順位をつけて個々の取組をしていかなければならないと考えている。 ・実現できるかというご指摘もあるが、実現をめざすための計画でもある。
浅岡会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ここで計画を立てたものに関して、その次の段階として、予算を積極的につけていくことに尽力いただければと思う。予算が明らかになればまたその実行計画のようなものが出てくるのか。
下尾課長	<ul style="list-style-type: none"> ・その通りである。
市丸部長	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の素案にあるとおり「市民、観光客、観光事業者」の3者にとって「三方よし」の計画にしたい。 ・1つ視点を変えると、観光を進めるうえでは「だれが事業をするのか」という観点がある。 ・プロモーションや PR、道路や観光用トイレの整備などは行政でやるべき取組である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・一方で、お客様に来てもらい、サービスを提供してもてなし、さらにそのサービスの質を上げ、収益を上げる、といったことは観光事業者に行っていたきたい内容である。 ・市民に関しては、様々な課題が出てきているので、市民と対話しながらどう対応していくかは、行政と観光事業者双方の役割であると思う。それぞれの立場があるが、具現化するために考えていきたい。 ・自分たちはこういう課題には対応できる、これは行政にやってもらいたいといった意見をぜひいただきたいと思う。
--	---

<観光の課題について>

豊福委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P38にある4つの課題について、まず1つ目の「オーバーツーリズムへの対応」については、以前から申し上げているとおりオーバーツーリズムになっているという実感はない。 ・2つ目の「分散型観光の推進」については、二見ヶ浦などの観光客が集中する観光地以外の観光振興を進めると理解しているが、それならばメインとなる観光地以外の何をもってアピールするのか、どういう資源があるのかというのは理解されているのか。 ・3つ目の「地域への受益の拡大」については、要は「観光事業者が儲けなければならない」ということだと思う。そうであるならば、観光事業者が「儲けるために何をしていかなければならないのか」、「儲ける意識を観光事業者にどう訴えかけていくのか」ということも重要になる。 ・例えば「いとしま Pay」という糸島市内の加盟店舗で使えるプレミアム付き電子商品券があるが、これは観光客に対するメリットはあるのか？もしあるのであれば、観光客にメリットをしっかりと伝えていけば、観光客と観光事業者の双方が喜ぶはずである。こういったアピールが必要である。 ・4つ目の「ターゲット戦略の導入」については、ターゲットを分析し絞る必要がある。ターゲットによって対応が異なる。例えば韓国をターゲットとするなら、韓国人は何を求めるかを分析しなければならない。 ・韓国人を例にすると、韓国の方はハイキングや歩くことが好きであるため、可也山をうまく使えないかと考える。そうすればうまく訴求していくと思う。
若松委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私はカフェと宿泊施設と農業を経営している。宿泊に関して、福岡市内でイベントなどがあると福岡市内のホテルが高くなるので、当宿泊施設も年末や春、秋の週末は満室になる。 ・糸島の景色など、泊まることで糸島の良さを初めて知ることも多い。泊まってみて、良かったら友人などに勧めてくださるので、情報が波及して

	<p>いく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白糸の滝などはオーバーツーリズムだと思うが、それ以外のエリアはオーバーツーリズムになっていないと思う。 ・二丈福吉には山や海、カキ小屋など財産があるので、先ほど例に出た韓国の方のニーズも満たされる。情報を知ると、観光のきっかけとなるのではないか。 ・場所によって対策は違う。よりきめ細かいフォローが必要だと感じる。
鹿島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・筑前前原駅の利用状況をみると、オーバーツーリズムとは全く感じていない。 ・GW、年末年始は世間一般では繁忙期であるが、筑前前原駅においては通勤通学のお客さまが減って閑散期となっている。観光のお客さまはまだまだ相対的に少ないと感じており、鉄道を利用した糸島観光はまだ伸びしろがあるのではないかと考える。 ・オーバーツーリズムの課題については、特定の場所に集中しないように、人が集まっていないスポットに焦点を当てる必要がある。 ・渋滞問題についても、鉄道とレンタサイクルなどを利用して、市内の観光スポットを周遊できるようにしたり、人が集まっていないスポットに行く仕掛けづくりをしたりすると三方よしになるのではないか。
市丸部長	<ul style="list-style-type: none"> ・皆様から色々ご意見をいただき、確かにそうだと感じることもある。 ・一方で、P38に「本市の観光に関するまとめ」として大枠の内容を記載しているが、糸島市全体がオーバーツーリズムとは思っていない。きめ細やかにまとめる必要があると認識している。

<公共交通等における名称について>

鹿島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・以前福岡市内の飲食店で「前原は糸島の先にあるのだろう」という会話を耳にしたことがある。糸島といえば福岡市西区の九大学研都市周辺をイメージしている方が少なくないようで、「筑前前原＝糸島」というイメージをお持ちの方がどのくらいいるのか。合併から年月が経ち、糸島市の筑前前原駅という駅名が伝わりづらい。 ・「筑前前原駅」という名称を「筑前前原駅(糸島駅・Itoshima station)」と、愛称を付けるだけでも違うと思う。西九州自動車道の「前原インターチェンジ」も同様に「糸島インターチェンジ」とした方が、観光のお客さまにわかりやすいのではないか。当然、地名に愛着を持たれている方も多いと思うが、糸島という名前がついていないと、糸島までアクセス出来るということが、インバウンドを含め、糸島をご存知ないお客さまに伝わっていない。
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・道路標識なども「前原市街」となっているが、「糸島市街」の方がわかりやすい。
市丸部長	<ul style="list-style-type: none"> ・基本、糸島市の施設については「糸島市」という表記に変えていると思うが、残っているところもあるのだろう。 ・JRの駅名を変えるにはどのような方法があるのか。
鹿島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・直近では江北町で地元の要望を受け、地元が費用を負担し、肥前山口駅を江北駅に改称した事例がある。改称には莫大な費用がかかるが、「(糸島駅・Itoshima Station)」というような愛称名であれば、そこまで負担は大きくないと思う。

<分散型観光の推進について>

若松委員	<ul style="list-style-type: none"> ・糸島は自動車利用が多い。逆に言うと電車を使った観光はポテンシャルがあるということでもある。二丈は電車が、志摩はバスが通っている。「公共交通機関×何か」といった形を作れるとよい。 ・何かを仕掛けて観光客が一気に増えることはない。地道に1人の観光客から芋づる式に広げていく。そして滞在時間が長くなれば宿泊者も増える。 ・何かの仕組みがあっても、そこに魅力がないと観光客は来ない。まずは何かがあるかを知ってもらわないといけない。
浅岡会長	<ul style="list-style-type: none"> ・白糸の滝や二見ヶ浦を訪れる観光客が多いといっても、特に二見ヶ浦は観光客が何度も訪れる場所なのかと疑問に思う。糸島市のリピート客はどこに訪れていて、何が良かったからリピートしているのか気になる。
鹿島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・二見ヶ浦は全く「三方よし」になっていない。九大学研都市から数少ない外国人の方々がバスに乗って来ているが、その区間の往復になっているので、糸島市への経済効果は限定的なのではないか。 ・一方で、バス路線を変えるのも難しいと思うので、二見ヶ浦以外の魅力発信が必要と思う。
白津委員	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客が県内で最も訪れているのは太宰府、その次が二見ヶ浦であり、弊社で博多駅から二見ヶ浦区間をウエストコーストライナーバスとして運行しているが、毎日増便対応をするほどご利用いただいている。 ・今年の10月から筑前前原駅から二見ヶ浦区間のバスの運行を開始する。博多駅から筑前前原駅まで筑肥線で片道640円、筑前前原駅から二見ヶ浦までバスで片道200円と、ウエストコーストライナーと比べると安い。 ・現状、多くの外国人観光客は、福岡市から直接二見ヶ浦へ向かっているため、糸島市から二見ヶ浦へ向かうよう、観光協会等と連携した取組を行いたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・本数は7往復くらいである。需要があれば本数も増やせる。 ・駅構内にデジタルサイネージを置きたかったが、手続き上設置が難しい。
鹿島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・筑前前原駅から二見ヶ浦へのバスの運行は観光面で大きなチャンスであり、取りこぼさないように関係者で連携して積極的にPRできるといいと思う。 ・筑前前原駅の改札前の足元に「二見ヶ浦行きバス乗り場はこちら」といったサインを設置するなど、予算をつけてもらえば対応は可能である。 ・外国人の方にこのような内容をPRするにはどうすればいいのか。
白津委員	<ul style="list-style-type: none"> ・他市では、プロモーターを活用してどんどん口コミで広げてもらっているようだ。
若松委員	<ul style="list-style-type: none"> ・口コミやレビューが重要だと思う。海外の人はそこに何があるのか知らないで、Google や旅行サイトの口コミやレビューを充実させる必要がある。
サーズ委員	<ul style="list-style-type: none"> ・糸島観光の面白さや、バスの行き先に何があるのかという観光情報を上手く発信することが大事だと思う。 ・わかりやすく正確な情報を、どこか1つのサイトで完璧に紹介出来れば良いと思う。
山本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・観光を分散したいと言っている一方で、鉄道などの公共交通機関を使ってほしいといった思いもあり、矛盾を感じる。自動車を利用し、分散して行動する人とはマッチしないのではないかと思う。 ・ターゲットによって取るべき対応は全然違う。私は旅行を計画する際によくAIで行程などを作成するが、地道に自分で調べるのが好きな人もいる。 ・先ほど地名の「糸島市」の活用を推進する意見が出たが、とても良いと思う。 ・カキ小屋やイチゴ農園が1年中営業していると思っている観光客が一定数いる。情報の発信力という点では「個」が強い面があると思うが、情報を集約して発信するというのを行政に実施してほしい。各事業者が何をしているかということも理解してもらえると嬉しい。

<観光振興の新しいアイデアについて>

田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から観光協会の理事を務めている。素案の中にもあったが、行政が計画に基づいて色々な取組をしているということ、観光事業者が知らないという点ももったいないと感じた。 ・一生懸命頑張っているが、悩みを抱える観光事業者も多いと思う。行政が進める取組を共有するだけでも効果があるのではないかと。1人で頑張っ
------	--

	<p>ていると感じている観光事業者もいるはずなので、行政・観光協会等で情報共有しながら「行政や観光事業者と一緒に観光振興に取り組んでいる」という繋がりを感じられるようになると思う。</p>
サーズ委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「三方よし」の価値観は共通のものだと思う。一方で、そのような価値観をもった観光事業者なのかを見分けられる何かがあれば良いと思う。 ・例えばお店に「糸島の食材を使っている」などの認定ステッカーを貼るなどして、チェックできるようにすれば、観光客も安心して利用できるし、私ならそのようなお店を応援したいと思う。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ステッカーはすごく良いと思う。例えばステッカーが貼ってある店でスタンプラリーを実施し、スタンプがたまったら何か特典を付けるなども良いと思う。

<糸島市観光協会との連携について>

下尾課長	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度この計画に連動する形で、糸島市観光協会においてDMO戦略を策定する予定である。糸島市観光協会には300を超える事業者が加盟しているので、ぜひDMO戦略においても観光事業者としてどういう取組をしていくかを議論して作り上げていただきたい。 ・DMO戦略の策定にあたっては、第3次計画と同様に九経調が支援に加わっているため、十分に整合をとりながら考えていきたい。
鹿島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会の理事会に市から誰か参加するのは難しいのか。参加する方がより施策が進むと思う。 ・他の地域の例だと、「自治体≒観光協会」というイメージがある。自治体の中に観光課があり、観光協会との繋がりが深いところが多いのではないかな。 ・糸島市の場合は、観光協会のことは観光協会、市はあくまで応援・後方支援という印象がある。もっと一緒になって事業に取り組めば良いのではと感じる。
市丸部長	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会メンバーにはなれないが、オブザーバーなどで参加することは出来る。 ・市と観光協会は両輪だと思っているので、役割分担をして進めていければいい。 ・糸島市観光協会はDMOであり、DMOは自ら稼ぎながら事業を展開する組織である。観光のまちづくりの主体となるDMOの組織強化を推進する国内の流れを受けて、本市でもそのような関わり方になっている。 ・もちろん全く関与しないというわけではなく、連携しながら進めていけたらいい。

市丸部長	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に対応していくため、まだまだ本市は観光として磨き上げる資源があるのではないかと考えている。次回以降、施策、取組の議論の中でそういった意見をいただき、計画に反映していきたい。 ・観光協会や観光事業者自身にも考えていただき、前例踏襲ではなく変化に対応していただきたいと考えている。
鹿島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会の一番の目的は誘客だと思う。 ・もっと大きな括りで誘客する仕掛けを考える必要があると感じる。
若松委員	<ul style="list-style-type: none"> ・福吉地区の地域づくり推進協議会では、自らHPを作り、福吉の事業者から月会費を募り、情報発信や求人情報の掲載などをする予定である。 ・誰かに頼りっきりではなく、自分たちで考えて施策を立てて動いており、福吉地区の若いメンバーが集まって頑張っている。 ・観光協会のHPにリンクしてもらうなど、協力していけるといい。お互いに情報共有していかないと広がらない。 ・この場には、観光協会の理事も来ている。自分たちで考え、お互いに情報交換し、現場の生の声を把握した上で、施策を検討したほうが良い。

<観光と第1次産業との連携について>

谷口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・農家は景観を作る仕事であり、観光にもつながる仕事だと思っている。 ・農作業の中で作物を収穫した後、堆肥をまくと、「糸島のおい」だと揶揄されることがある。一部の地域では、住民から苦情を受け、農業がしづらいという声も出ている。 ・たい肥をまくことは、おいしい農作物を作るためには大事なことである。 ・観光客向けだけでなく、糸島市民に対しても、情報発信が必要だと感じている。 ・こういったネガティブな印象をポジティブに変えるために、観光を使ってイメージ転換をできたらと思う。 ・例えば、カキ小屋で出る牡蠣殻は石灰として肥料に再利用できる。これはとても良い循環だと思う。このような事例に市の観光分野がコミットすれば、農業や漁業といった1次産業者も観光事業者となりうる。 ・第1次産業と観光がタッグを組んで積極的に発信していけたら良い。 ・私も今年から観光協会の理事に就任しているため、観光協会のSNS等で、このような情報発信を働き掛けたい。
------	--

<計画素案の改善点について>

岡部副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・P38にある糸島市の観光の課題に対して、どのような答えをもって第3
-------	--

	<p>次計画の中で対応していくのかメッセージが欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3次計画の中で今回新たに取り入れたものがあるなら、どのようなイメージで計画を立てられているのか教えてほしい。 ・前回から継承した部分と新たに取り組む部分が区別されているといい。
浅岡会長	<ul style="list-style-type: none"> ・私も P39～40 はわかりづらいと思う。一目見ただけで全てがわかるような図が必要だと思うが、現状は中途半端である。 ・例えば P41 のピラミッドに目指す将来像や基本方針があるが、一方で基本的な考え方はこの図にはないので、自分の頭の中で整理をしないとわからない。P39～43 で行ったり来たりしてしまう。 ・P43 の図は比較的情報が網羅されているが、全体像は分かりづらい。 ・加えて、岡部副会長の言われた新しく取り組む内容を具体化、言語化することを考えていただきたい。
徳安委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P29 の訪問観光地はほとんど海沿いのエリアである。山手は自転車では行くことができず、公共交通機関も少ないので、山の方に行くルートや交通手段を整備するといいい。 ・山手にはフォレストアドベンチャー（白糸エリア）などがあるが、冬でも山手を楽しめるアクティビティがあればいい。 ・また、伊都菜彩は冬の時期は観光バスが来るが、夏の時期はほとんど来ない。夏の時期でも楽しめるように、例えばトロリーバス、観光ツアーなどでまんべんなく楽しめるようになるとよい。
白津委員	<ul style="list-style-type: none"> ・バス交通は地区ごとにターゲットがある。この計画でも、次の第5章に全体像、第6章に地区ごとの取組があるとわかりやすいと思う。
市丸部長	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は基本的な方針のところだけを示しているので、具体的な戦略や取組がないと議論しづらかったのではないかと感じている。 ・目指す将来像は、第2次計画と同じ将来像であり、第3次計画でも継続すべきものとして掲げている。今後議論の中で変更することも可能だと思うが、いまだ変わらない目指すべき将来像だと感じている。 ・「住んでよし、訪れてよし、働いてよし」という「三方よし」が第3次計画の肝と思っている。 ・観光事業者には自分事として取り組んでいただき、稼いでいただきたい。 ・次回以降、具体的な取組に関して意見をいただければと思う。
荒川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・糸島市は観光に対し受け身であり、おとなしい印象を受ける。「質の向上」や、「稼いでほしい」というのは全て他力本願である。 ・今の糸島はたまたま二見ヶ浦があつて、たまたま白糸があつて、事業者が頑張った結果、観光が盛んな街になった。 ・糸島市として目玉となるような何かを「誘致する」という観点がない。

	<p>市は事業者のコーディネート、広報に徹する印象を受ける。攻めの姿勢を打ち出さないという方針でいいのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーバーツーリズムを感じていないのに制御しようとしているのも、コーディネーターに徹している印象である。 ・一方で、糸島市のHPを見ると企業誘致施策があつて、工業団地を造るなどわかりやすいものがある。観光に関しては、「誘致」という単語は全くない。観光事業者が幸せに稼いでもらえればいいという他力本願を感じる。トイレの整備だけをするのが市の在り方なのか？ ・第2次計画も同様の内容であつたし、第3次計画もそういう方針か？コーディネートを徹して、今ある資源を活用するというのも1つの方法かもしれないが、もし攻める姿勢が抜けているのだったら考えてほしい。 ・事業者が出店しやすい環境づくりも検討してほしい。
市丸部長	<ul style="list-style-type: none"> ・攻めの姿勢がないとは思っていない。今後の具体的な中身に入っていく中で考えたい。 ・何をもって攻めの姿勢というのか？
荒川先生	<ul style="list-style-type: none"> ・攻めの姿勢とは、簡単に言えば観光事業者を誘致すること。観光事業者が参入しやすくなる仕組みや観光事業者を誘致することが、素案に全く入っていない。政策や補助金でもよい。 ・調べると色々な自治体で観光事業者の誘致事例がある。
浅岡先生	<ul style="list-style-type: none"> ・活発な議論をいただいた。今回の議論や課題の対応については、第5章に期待いただければと思う。

5. 事務連絡

田中課長補佐から事務連絡があつた。

6. 閉会

岡部副会長より閉会の言葉があり、第2回糸島市観光審議会を閉会した。

岡部副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は前半から活発な議論がなされた。今後、具体的な計画策定が進む。皆さん言いたいこともいっぱいあると思うが、活発な議論が質の高い振興計画にとっては必要と考えている。 ・より質の高い振興計画にするため、今後も協力をお願いしたい。
-------	---

次回：令和7年10月上旬

以上